

家計に重くのしかかる生命保険料

65.8%が「高い」、20%以上が「月額 3 万円以上」、
 保険の見直しで、6 割以上が「安くなった」、7 割が「満足」と回答
 ～契約内容のわかりにくさと、保険会社の信用力が問題視～
詳細結果: <http://kakaku.com/research/backnumber027.html>

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第27回調査『生命保険徹底調査！』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。新生活スタートと共に保険の見直しを考える方が多くなる時期を迎え、「価格.com」ユーザーへ生命保険の加入状況や保険料の金額、満足度などについて調査を行ないました。

【調査方法・ユーザーパネルについて】

調査エリア：全国 調査対象：価格.comID 登録ユーザー

調査方法：価格.com サイトでの Web アンケート調査 回答者数：3,392 人

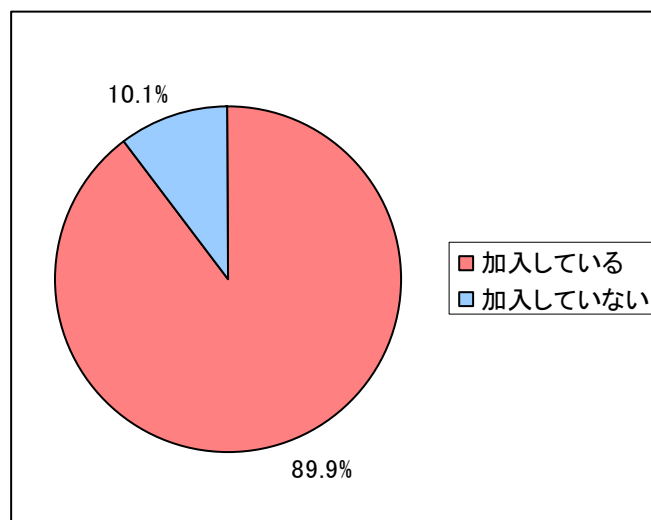
男女比率：男 86.3%：女 13.7% 調査期間：2009 年 2 月 19 日～2009 年 2 月 25 日

調査実施機関：株式会社カカコム

回答者の約 9 割が生命保険に加入

今回の調査での生命保険の加入率は 89.9%と 9 割近い。財団法人生命保険文化センターによる、「平成 19 年度生活保障に関する調査」(http://www.jili.or.jp/research/report/chousa19th_2.html)の結果では、生命保険の加入率は 79.9%となっているので、価格.comユーザーの生命保険加入率は平均よりはやや高めといえそうだ。年齢別に見ると、やはり働き盛りの 30～50 歳代の加入率が高く、60 歳代も合わせて、9 割前後の方が生命保険に加入している。逆に 20 歳代は 65.2%と低い水準だ。

【図 1. 生命保険の加入率】

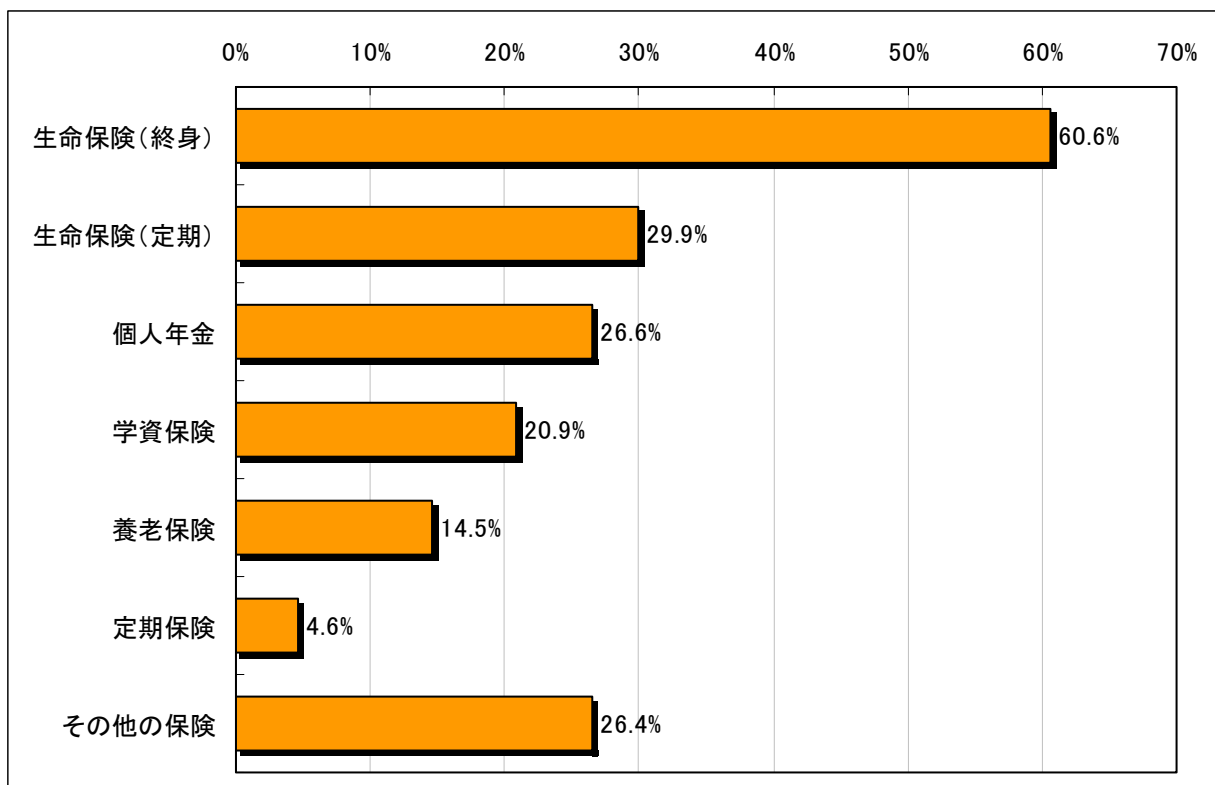


加入している保険の種類:「終身型生命保険」が 60.6%で 1 位

加入している保険の種類では、「終身型生命保険」が 60.6%と飛びぬけて高く、次点の「定期型生命保険」の 29.9%の約 2 倍となっている。ただし、これを年齢別に見ると、若年層の 20 歳代では「終身型」と「定期型」がほぼ同数。60 歳代では 3 倍近い開きとなっており、高齢になるほど「終身型」と「定期型」との割合が開く傾向にあることがわかる。なお、「養老保険」以外のすべての保険で加入率が高かったのは、やはり一家の大黒柱である 40 歳代だった。

その他の保険では、40~50 歳代で「個人年金」に加入する割合がいずれも 30%を超えており、「養老保険」は 50~60 歳代での加入が多い。「学資保険」は 40 歳代が 30%を超えているが、30 歳代、50 歳代では 20%を切っており、子供の高校進学・大学入学に備えて加入するパターンが多そうだ。なお、「その他の保険」の割合も高いことから、今回調査対象外とした保険の加入率も高いことが伺える。

【図 2. 現在加入している保険を全てお選びください（複数回答）】



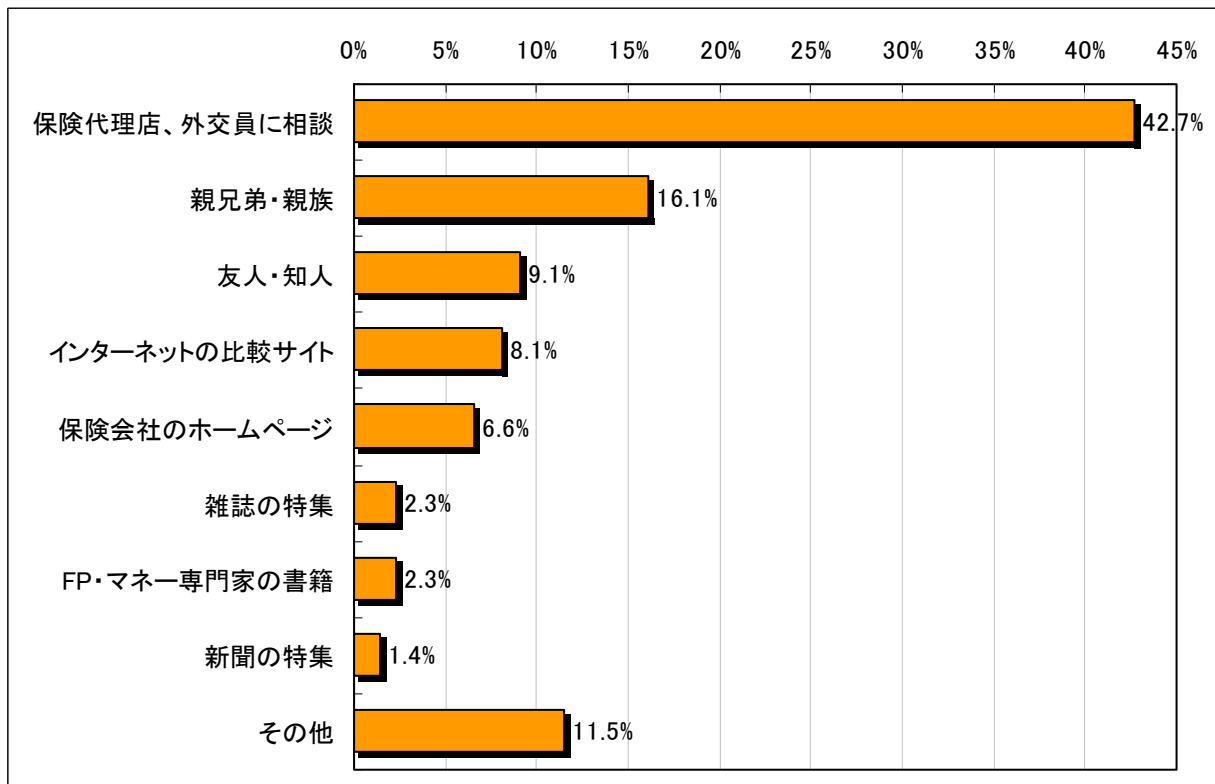
加入時にもっとも参考にした情報源:「保険代理店や外交員に相談した」42.7%

比較サイトの利用も広がりを見せる

生命保険加入時にもっとも参考にした情報源では、「保険代理店や外交員に相談した」という意見が 42.7%と半数近くのにぼった。この傾向は、高齢になればなるほど顕著に現れ、ある意味では伝統的な生命保険の加入パターンともいえる。その他の情報源としては、20 歳代、30 歳代に比較的多い「親兄弟・親族」(16.1%)を除けば、すべて 10%以下と割合は低く、ほとんどの方が保険代理店や外交員の方の意見を重視して保険を決めていることがわかる。

なお、その他の情報源では、「インターネットの比較サイト」(8.1%)が「保険会社のホームページ」(6.6%)や、「雑誌・新聞・書籍」などよりも高い割合を示している。生命保険の検討に当たって比較サイトを利用するという割合も、各年代を通じてある程度広がりつつあるようだ。

【図3. 保険加入検討時にもっとも参考にした情報源をお選びください】

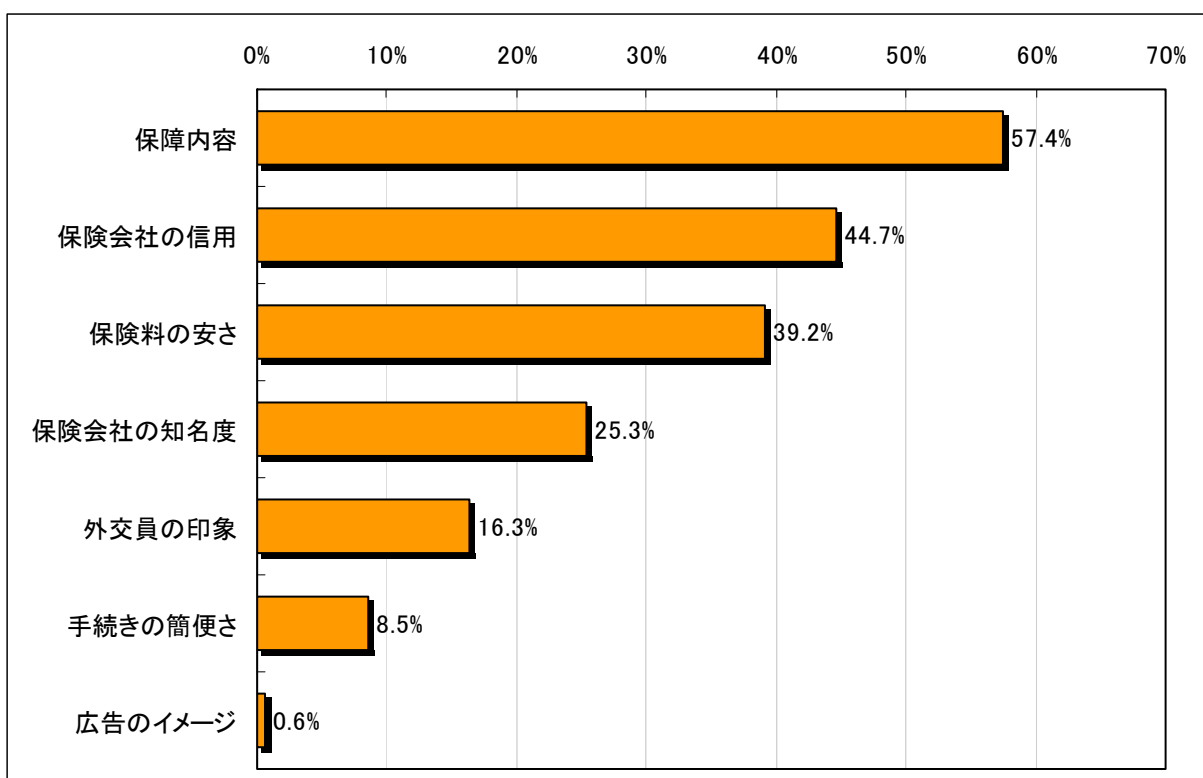


生命保険選びで重視したポイント: 1位「保障内容」57.4%

「保険会社の信用」が「保険料の安さ」を上回る

生命保険選びで重視したポイントとしては、年代を問わず「保障内容」がトップで、57.4%となった。これに続くのが「保険会社の信用」(44.7%)で、「保険料の安さ」(39.2%)を上回る結果になった。この結果はやや意外であるが、昨今の金融不況の影響による保険会社の合併や倒産などを考えた場合に、生命保険の加入に対してもリスクを感じる人が多い、ということの現れであろう。「いくら保険料が安くても、会社が倒産してしまっただけではどうにもならない」という現実が見え隠れする結果となった。

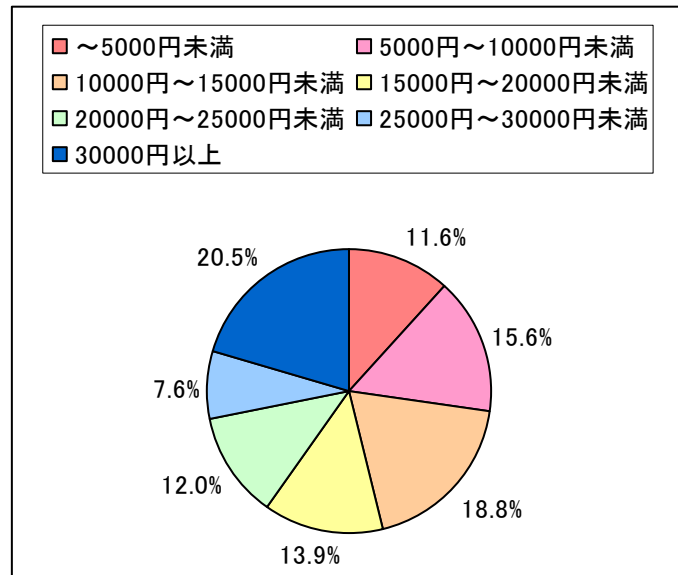
【図4. 生命保険選びで重視したポイントをお選びください】



1ヶ月あたりの生命保険料の総額:30,000円以上が最も多く、20.5%

1ヶ月あたりの生命保険料の総額を聞いたところ、かなりきれいに回答が割れたが、もっとも多かったのは30,000円以上の20.5%。続いて、10,000~15,000円の18.8%、5,000~10,000円の15.6%となっている。月額30,000円以上支払っている方がここまで多いというのは一見意外な印象だが、年齢別に見ると40歳代、50歳代での割合がきわめて高い。この世代では、一般の生命保険にプラスして、養老保険や学資保険など平均して2つ以上の保険に入っている場合も多く、総額にすると30,000円を超えるケースが多いようだ。

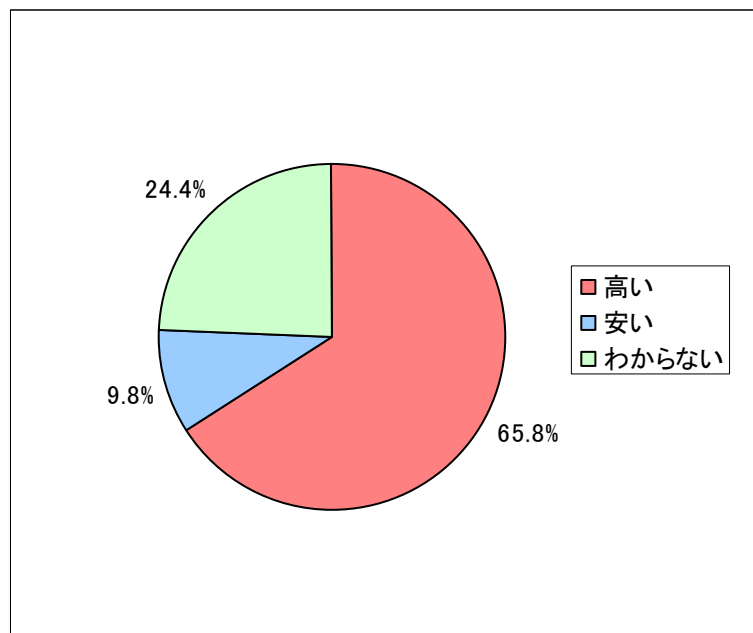
【図5. 現在支払っているひと月あたりの生命保険料の総額をお選びください】



1ヶ月あたりの生命保険料:「高い」と感じる回答者は65.8%

1ヶ月あたりの生命保険料について、「高い」と感じている人が65.8%と多数を占める。年齢別に見ると、やはり30,000円以上の高額な保険料を支払っている40~50歳代で「高い」という割合がかなり多い。また、金額帯別に見てみると、「5,000円未満」は「安い」と感じている人が「高い」を超えるが、「5,000~10,000円」では、約半数の人が「高い」と感じるようになる。この結果から考えるに、月々の生命保険料として妥当と感じるのは、「高くても10,000円程度」というのが一般的といえそうだ。

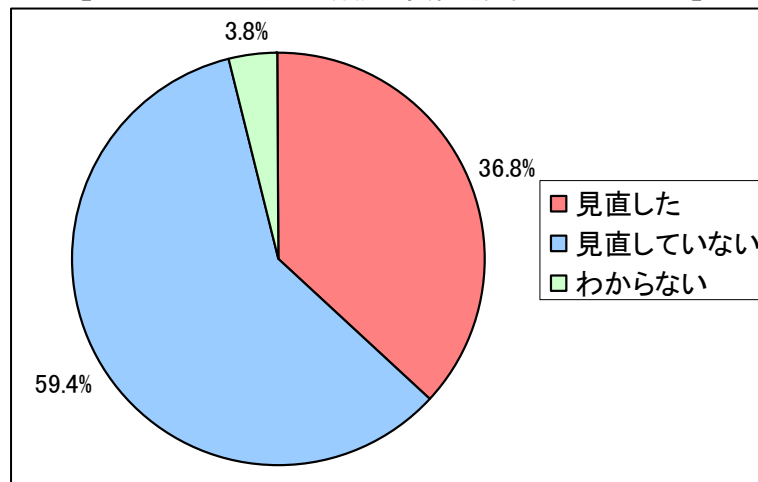
【図6. 生命保険のひと月あたりの掛け金についてどう感じていますか?】



過去 3 年間で生命保険の契約を見直した人は 36.8%

この3年の間に生命保険の契約を見直したかどうかをうかがったところ、「見直した」という人が36.8%という結果となった。年代別に見ると、20歳代から50歳代のすべての年代で「見直した」という人が35%以上にのぼるが、60歳代以上になると30%を下回る。見直しを行わない理由を聞いたフリーアンサーも合わせて考えると、「高齢になるほど、見直すことで、逆に保険料が高くなる可能性が高い」という意識が大きく影響しているものと思われる。

【図7. この3年間で保険の契約を見直しましたか？】

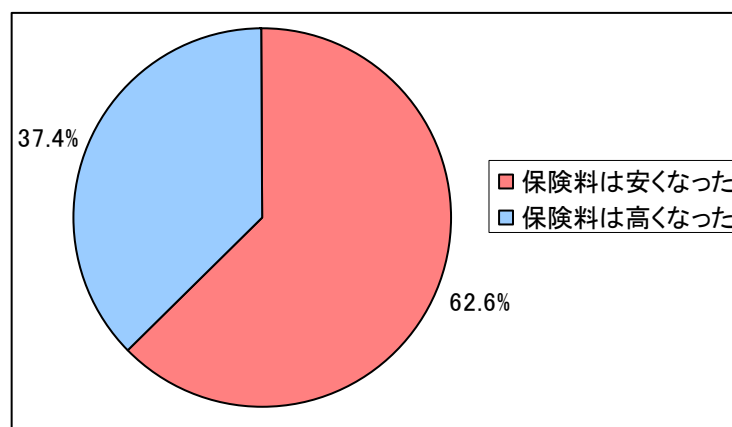


生命保険の見直しで「保険料が安くなった」62.6%

生命保険の見直しによる料金の変化について聞くと、62.6%の方が「保険料が安くなった」と答えているが、この中には、「保障内容がほぼ同じで安くなった」というものと、「保障内容を削って安くなった」の両方が考えられる。しかし、満足度に関する回答結果（図9）と満足度の理由（フリーアンサー）を合わせると、多くの場合は見直しによって、「保障内容がほぼ同じで安くなった」パターンに相当すると考えられる。

年代別に見ると、高齢になるほどこの傾向は顕著となり、60歳以上で「保険料が安くなった」と答えた人の割合は、なんと80.6%にもものぼる。この中には、「保障内容を下げて安くなった」という方も含まれるが、全般的に見ると、保険見直しによって保険料が安くなる割合は高齢になるほど高くなる傾向があるといえる。

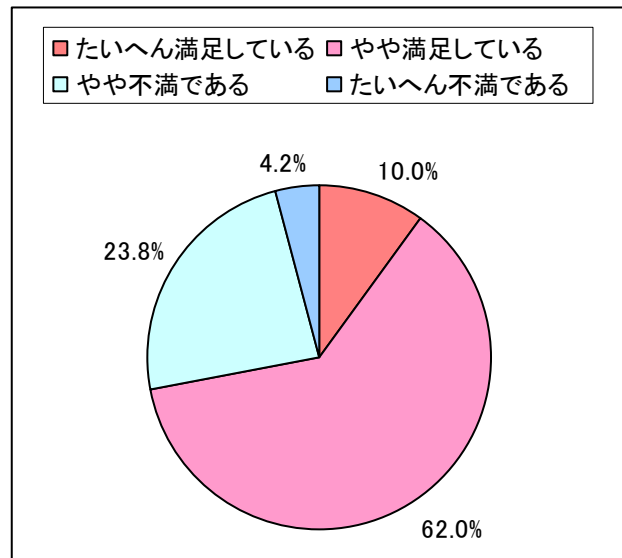
【図8. 見直し後、保険の料金はどうなりましたか？】（図7で「見直した」と回答した方に質問）



生命保険を見直した人の約7割が、保険の契約の見直しに満足と回答

生命保険見直し後の保険契約の内容については、62.0%の人が「やや満足」、10.0%の人が「たいへん満足」と回答しており、回答者の約4分の3が、保険契約の見直しによって「よりよい」内容の保険に切り替えられた、としている。年代別に見ると、若年層ほど、保険見直しの結果を「満足」と答えており、高齢になるほど「不満」が多くなる傾向があるが、全体的には各年代とも保険料が下がって満足する人は多いといえる。

【図9. 見直し後、保険の契約内容には満足していますか？】（図7で「見直した」と回答した方に質問）



■総評■ 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長

一生のうちで購入するものの中で、「家の次に高い買い物」と言われている「生命保険」。しかしながら、生命保険は複雑なものであり、きちんと理解することはなかなか難しいと考えられる。また、新生活スタートと共に保険の見直しを考える人が増える時期でもあるため「生命保険」に関して、調査を行なった。

今回の調査では、回答者の約9割が何らかの生命保険に契約しており、そのうち6割が終身型の生命保険に加入していることがわかった。加入のきっかけは「自分で必要と感じて」が圧倒的に多いが、実際のサービス購入に当たっては、従来通りの「保険代理店」あるいは「外交員」による営業や勧誘に基づくパターンが多いようである。なお、保険比較サイトなどを参考にするという回答者も1割程度と、客観的な比較・分析を行う方も一定数はいるようだ。

生命保険の内容で重視するポイントはやはり「保障内容」が多いが、昨今の金融不安や、保険会社の不払い問題などの影響もあり、「保険会社の信用」をあげる人が、「保険料の安さ」を上回ったのが印象的だ。1か月あたりの保険料は、一般的な終身型生命保険で5,000~15,000円のゾーンがもっとも多いが、一家の大黒柱となる40歳代、50歳代では、個人年金や養老保険、学資保険などを合わせた1か月の支払総額が30,000円以上になるケースも多い。なお保険料に関しては、月額10,000円までが妥当と感じるラインといえそうだ。

契約見直しについては、この3年以内に3分の1以上の人が行っており、うち3分の2程度の人が、契約の見直しによって保険料が下がったことなどによる満足感を得ている。多くの方は「特約」などの保障が若干薄くなっても保険料が下がることを歓迎する傾向にあり、過度な保障内容は敬遠される傾向にあるようだ。

生命保険全体の全体的な印象としては、「契約内容がわかりづらい」「まだまだ割高」という意見が多かった。また、保険会社自体に信頼をおけなくなっているという意見もかなり多く見られた。保険会社の安定経営と、顧客重視のしっかりした販売・説明の姿勢が、今もっとも問われているといえるだろう。

※フリーアンサーを含む詳細結果、および過去のリサーチアーカイブは以下URLをご参照ください
<http://kakaku.com/research/backnumber.html>